

わくわく!ふくいっ子



R7.12.23 文責 福井小学校長 鶴本正道



「学ぶ」ことは、自分を変えること
～冬休みは「お手伝い」を通して、心の成長を～

早いもので、冬休みを迎えようとしています。全校集会では、子供たちに「学ぶことは自分を変えること」という話をしました。

新しい知識を得たり、できなかったことができるようになったりすることは、単にスキルが身につくだけでなく、自分の中に新しい世界が広がり、物事の見方や考え方が変わるということです。図工で新しい技法を知れば表現が変わり、理科で新しい発見をすれば日常の景色が変わって見えます。

学びの場は、学校の教室だけではありません。ご家庭での会話、読書、遊び、そのすべてが子供たちにとっての学びの種です。そこで、この冬休みの課題として、子供たちには「家のお手伝い」を頑張るよう伝えました。単なる家事の分担としてではなく、お手伝いこそが「自分を変える」大きな学びのチャンスだと考えているからです。子供たちには、お手伝いから得られる「3つの良いこと」を伝えました。

お手伝いから得られる「3つの良いこと」

1. 自信（自己肯定感）が育つ

自分一人で何かをやり遂げる経験は、「自分はできるんだ」という自信につながります。



2. 家族の絆が深まる

家族の一員として役割を果たし、協力し合うことで、家庭内でのコミュニケーションがより豊かになります。

3. 優しい心が育つ（自己有用感）

私が一番子供たちに伝えたいのは、この3つ目です。誰かの役に立ち、感謝される喜びを知ることです。「ありがとう」と言われることで、子供たちは「自分は誰かの役に立っている」という喜びを感じます。それが、「また何かしてあげたい」という他者を思いやる優しい気持ち（利他の心）を育てます。

冬休み中、お子様がお手伝いをしてくれた時は、ぜひ「ありがとう」「助かったよ」と言葉にして伝えてあげてください。その一言が、子供たちの自信となり、次の意欲へとつながります。

ご家族皆様で、温かく充実した冬休みを過ごされることを願っています。

